

1 事業の概要

- (1) 趣 旨 小中学校教諭を対象に、体験活動の意義を理解し、体験活動を実施する上での指導法や安全管理のポイントについて実体験を通して習得し、学級経営や生徒指導に活かせるようにする。
- (2) 期 日 平成 30 年 10 月 27 日（土）～28 日（日） 【1泊2日】
- (3) 活動場所 国立阿蘇青少年交流の家
- (4) 参加者 7名
- (5) 担当職員 尾家 義隆（企画指導専門職） 安部 信吾（事業推進室長）
- (6) 講 師 中川 保敬（熊本大学教育学部） 古賀倫嗣（熊本大学教育学部）
安部 信吾（事業推進室長） 尾家 義隆（企画指導専門職）
- (7) 内 容 【1日目】講義①『教育課程と体験活動の関連性』（3時間）中川 保敬
演習①『自然体験活動と仲間作り』（1時間30分）尾家 義隆
演習②『野外調理の実際』（2時間30分）尾家 義隆・安部 信吾
【2日目】講義②『体験活動の教育的意義』（3時間）古賀倫嗣
講義③・演習③『集団宿泊学習の計画・立案』（2時間）安部 信吾

2 成果と課題

(1) 成 果

- 受講者からの事前アンケートで「集団作りのテクニックを学びたい。」「仲間作りのための具体的な支援の方法を学びたい。」といった講習に対してのニーズがあった。また、講義①までに受講者同士の自己紹介もできていなかったことから演習①『自然体験活動と仲間作り』では、実際に自己紹介ゲームからチームビルディングまで参加者に体験してもらいながらレクリエーションの意義や進め方を伝えていく手法をとるようにした。

受講者の事後アンケートでは、「学級作りに明日から活かそうと思います。」「即実践できる演習でありがたかった。」「(受講者同士が)全く知らない上、教員でもない自分が仲間になれるのか相当不安でしたが、いろいろと話ができるようになり本当によかったです。」という感想があり、演習①の手立てが有効であったことがわかる。

- 演習②『野外調理の実際』では、KYT（危険予知トレーニング）を事前に行った上で野外調理に臨んだことで、受講者自身が調理や薪割り、火起こしなどの作業でどのようなことに気を付けたらよいかを意識しながら活動することができた。
- 「準備が無くてもできるレクリエーション」や野外調理「段ボールオーブンで作るピザ作り」の資料を現場ですぐに実践できるお土産として受講者に渡すことができた。
- 講義③・演習③『集団宿泊学習の計画・立案』では、現代の子供たちの現状や新学習指導要領における集団宿泊活動の意義、プログラムの企画の方法や留意点などの説明をした後、自校における集団宿泊学習の計画を立案してもらった。受講者からは、「実際に立案しようとする、テーマの設定から内容についてなど考えることが多いことを実感した。」「今まで例年通りで計画していたので、どのように計画・立案するのか具体的に分かった。」「学校の教職員に伝えようと思いました。」などといった感想があり、本講義・演習のねらいが達成できたことがわかる。

(2) 課 題

- 来年度に向けて更なる受講者確保のためにアンケートをとった。いずれの受講者からも「夏休みの平日での開催がいい。」という意見があった。今後、日程等の検討・改善が必要である。



講義①『教育課程と体験活動の関連性』



演習①『自然体験活動と仲間作り』



演習②『野外調理の実際』



火起こし体験



「段ボールオーブンで作るピザ作り」



講義②『体験活動の教育的意義』



講義③・演習③『集団宿泊学習の計画と立案』



立案した集団宿泊学習の計画を発表